

第3期事業報告

自 2022年7月1日
至 2023年6月30日

I. 事業の概要

2022年7月～2023年6月までの第3期においては、新たな会長のもと、事業計画に基づく協議会運営に努めるとともに、第2期同様、文部科学省 令和4年度及び令和5年度科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」の運営も行った。また、第3期からは理事会の機能強化を図るため、理事懇談会を設置し、本協議会の中長期的な課題の共有も含め理事が協議会の運営により関与する運営体制整備を進めた。

期首に計画された事業についても、概ね計画通りの実施となった。特に、新型コロナウイルスに対する行動制限の軽減に伴い、第8回年次大会を、対面参加を基本とするハイブリッド方式で、仙台国際センターにて開催した。また、前身のリサーチ・アドミニストレーター協議会時代から構想されていたジャーナルについては、ジャーナルタスクフォース（TF）でのジャーナルの基本設計がなされ、その後、ジャーナル編集委員会を設置して、ジャーナルTFで設計された各種ルールに基づき創刊号の発刊に向けた具体的な準備を進めた。

各専門委員会の活動については、第2期に引き続きオンライン会議の活用により活発な活動が行われた。なお、将来構想検討会については時限付き会議体であり、理事懇談会の設置に伴い第3期をもって活動を終了した。

そのほか、会員対象の会員実態調査2022を行い、研究支援業務従事者の各種背景や実情を数字で示す活動を進めた。事務局については、会員管理システムを新規システムに切り替えて運用を開始し、会員管理や会費や各種イベント参加費の集金・督促業務に係る事務局の負担を従来よりも削減できた。また、年次大会の受付もQRコードを用いた方法へ切り替えることで受付にかかる人員の削減を実現した。

その中であって、組織会員4機関、賛助会員2機関が新たに加入するなど、本協議会の社会的な認知向上や求められる役割が一層高まっていると言える。

一方で、協議会の安定的な運営に向けた事務局体制の整備とその体制を維持するための財政基盤の安定化は引き続きの課題である。

各事業の活動概要は次の通りである。

1. 活動促進事業

(1) 第8回年次大会の開催（参加者数：609名、所属機関数：136機関）

第8回年次大会（東北大学）を仙台国際センター 展示棟で開催した。今回は対面参加を基本としたハイブリッド方式で実施し、第6回、第7回に引き続き質の向上の観点での改

革期と位置づけ、年次大会専門委員会を中心に、セッションのあり方を見直すとともに、受付方法の見直しなどロジ面での改善にも取り組んだ。

(2) 新規会員の開拓

組織会員を中心に新たな会員獲得の活動を進め、新たに4機関が入会した。第2期から開始した研究大学エグゼクティブフォーラムについては、第2回を第4期に開催するため関係各所と調整を進めた。

また、賛助会員として新たに2機関が入会した。賛助会員の属性も多様化しており、賛助会員のニーズに応じたサービスを提供することで更なる会員獲得へ繋げられるよう、今後の検討が必要である。

(3) 協議会の活動の多角化に向けた検討

協議会の活動の多角化の基盤となる事務局の運営体制等については、第3期から今後のあり方を含め理事懇談会等で議論が開始されたところである。また安定的な運営を実現するための財務基盤の強化も同時に議論が開始されており、会員サービスと併せて一体的な検討を進め、第4期中に方向性を明確にする見込みである。

(4) 会員サービスの拡充

会員サービスの拡充の取り組みの一つとして会員管理システムを変更した。これにより会員間のメッセージのやりとりやイベント情報の掲載等が容易に行えるようになり、会員間の情報交換の円滑化が期待される。また、会員もサービスの提供を享受するだけでなく、会員同士が連携し共に協議会を作り上げていくという意識の醸成とそれを可能とするインフラの整備が求められる。

2. 人材育成事業

(1) URA 実務者養成講座の企画・運営開催

URA 実務者養成講座<初級編>、<中級編>を開催した。

(2) 年次大会スキルプログラム専門委員会セッションの開催

第8回年次大会において、テーマ別勉強会<試行>活動報告、中堅 URA スキルアップを実施した。

(3) テーマ別勉強会の支援・検討

テーマ別勉強会の試行結果を踏まえた各種要領の整備、課題整理を行なった。

3. 情報発信・普及啓発事業

(1) ネットワーキングセミナーの開催

大学におけるリカレント教育に期待される役割をテーマにネットワーキングセミナーを開催した。

(2) 情報発信のための SNS 等の運用指針の検討及び理事会等への提案

引き続きの検討課題である。

(3) RA 協議会 web サイトのコンテンツの更なる充実に向けた検討及び理解への提案
引き続きの検討課題である。

(4) RMAN-J Journal (仮称) の狙いに関する基本的事項の検討
編集規程, 執筆要領等を検討し, 理事会での承認を得て創刊号の具体的な編集作業を開始した。

(5) ジャーナルの出版インフラ発行運営体制の検討
ジャーナルタスクフォースを発展させ, ジャーナル編集委員会を新たに設置した。第 3 期は創刊号の編集委員会を立ち上げ, そこで各種作業を担当することとなった。

(6) RA 協議会 web サイトにおける国際専門委員会の活動紹介の英語化
引き続きの検討課題である。

4. 連携推進事業

(1) 第 2 回研究大学エグゼクティブ・フォーラムの開催

第 1 回の実施を踏まえ, 第 2 回の実施に向けた開催場所の調整等を進めた。第 2 回研究大学エグゼクティブ・フォーラムは第 4 期の開催に向け準備を進めている。

(2) 年次大会国際専門委員会セッションの企画・運営

第 8 回年次大会において国際専門委員会セッション「国際専門委員会・新たな価値創造の源泉となる国際 URA の活動と展望」を開催した。

5. 特別事業

(1) 科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」

第 2 期に引き続き URA 質保証制度に関する検討・調整を行なった。なお, URA スキル認定制度自体は一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構が実施している。

(2) URA スキル認定制度に係る Advanced レベル (RA 協議会担当分) の研修の検討・実施

引き続きの検討課題である。

6. その他

特になし

II 会員状況 2023 年 6 月 30 日現在 (括弧内は 2022 年 6 月 30 日現在)

組織会員数：36 機関 (32 機関)

組織内個人会員数：456 人 (404 人)

組織外個人会員数：200 人 (193 人)

特別会員：3人（3人）

学生会員：0人

賛助会員数：6機関（4機関）

III 会議開催状況

1. 社員総会

第3期臨時社員総会 2023年6月30日（金）オンライン開催

第1号議案 第4期事業計画書（案）及び収支予算書（案）について

第2号議案 理事の選任について

2. 理事会

第10回理事会

2022（令和4）年8月10日（水）13:00-15:50

議案第1号 第2期事業実績報告について

議案第2号 会長（代表理事）の選定について

議案第3号 代議員の交代について

議案第4号 年次大会における参加費等の取り扱いについて

議案第5号 理事懇談会（仮称）の設置について

議案第6号 組織会員/賛助会員向けサービス（マッチング）について

議案第7号 INORMS Award：候補者について

議案第8号 RA協議会が発行するジャーナルについて

議案第9号 消費税の取扱いについて

第11回理事会（書面附議）

議案第1号 組織会員の入会及び代議員候補者について

議案第2号 賛助会員の入会について

議案第3号 第3期専門委員会委員について

第12回理事会

2022（令和4）年11月30日（水）13:00-14:10

議案第1号 新規会員の入会について

議案第2号 組織会員代議員の交代と理事の退任について

議案第3号 年次大会専門委員会委員長の交代について

議案第4号 ジャーナルの発刊について

議案第5号 URA実務者養成講座＜中級編＞の開催について

議案第6号 EUA/Science Europe Coalition "Towards Responsible Research Assessment"

について

第 13 回理事会

2023（令和 5）年 2 月 8 日（水）13:00-14:20

- 議案第 1 号 新規賛助会員の入会について
- 議案第 2 号 ジャーナルの発刊について
- 議案第 3 号 謝金規程の改正について
- 議案第 4 号 第 9 回年次大会について
- 議案第 5 号 組織外個人会員選挙会を設置することを検討する会議体の構成について
- 議案第 6 号 インボイス制度への対応について

第 14 回理事会（書面附議）

- 議案第 1 号 組織会員の入会及び代議員候補者について（千葉大学）
- 議案第 2 号 組織会員の入会及び代議員候補者について（東京大学）
- 議案第 3 号 組織会員の入会及び代議員候補者について（東海国立大学機構）
- 議案第 4 号 組織会員の代議員交代に伴う代議員候補者の承認について

第 15 回理事会

2023（令和 5）年 5 月 24 日（水）13:00-15:01

- 議案第 1 号 新規組織会員の入会について
- 議案第 2 号 組織会員の代議員候補者について
- 議案第 3 号 組織外個人会員の代議員候補者について
- 議案第 4 号 第 4 期事業計画・収支予算案について
- 議案第 5 号 年次大会について
- 議案第 6 号 国際専門委員会及びジャーナル編集委員会（第 2 号以降）の委員長について
- 議案第 7 号 専門委員会等用のメールアドレスの取扱いについて

第 16 回理事会（書面附議）

- 議案第 1 号 一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会の第 4 期における理事及び監事の人数について

各専門委員会等の事業報告は次の通り。

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|---|
| 期 | 第 3 期 (2022.7.1~2023.6.30) |
| 委員会等名 | 年次大会専門委員会 |
| 委員会等 開催状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回年次大会の開催 2022 年 8 月 30 日、31 日@仙台国際センター (ホスト大学:東北大学) ・年次大会引継ぎ式 2022 年 11 月 9 日@未来たまメッセ ・第 1 回年次大会専門委員会 2022 年 12 月 12 日 委員会の役割決めと 中長期計画、第 9 回年次大会等について ・第 2 回年次大会専門委員会 2023 年 12 月 23 日 中長期計画、第 9 回 年次大会等について ・第 3 回年次大会専門委員会 2023 年 1 月 26 日 第 9 回年次大会につ いて議論 ・第 4 回年次大会専門委員会 2023 年 3 月 10 日 第 9 回年次大会につ いて、スポンサー趣意書及び個人発表について議論 ・第 9 回年次大会セッション実行委員募集説明会 2023 年 3 月 13 日 大会概要、セッション実行委員会の位置づけと役割、及び応募方法を説 明 ・第 9 回年次大会第 1 回セッション実行委員会 2023 年 6 月 8 日 予稿集・プレゼン原稿などの登録システム(Smart Core)に関する説明 等 ・その他メーリングリストによる意見交換及び業務 |
| 具体的 活動内容 | <p>(1)第 8 回年次大会の開催 2022 年 8 月 30 日、31 日@仙台国際センター (ホスト大学:東北大学)</p> <p>「リサーチ・アドミニストレーション機能の拡充による研究力強化への 取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 609 名、所属機関数: 136 機関 ・対面を中心としたハイブリッド方式での開催 ・特別セッション 1 件、会員セッション 12 件、参加者ネットワーキング セッション 5 件、専門委員会セッション 3 件、賛助会員セッション 3 件、非営利団体セッション 4 件、ランチョン 3 件、専門委員会活動報告 1 件、の合計 32 件 ・個人のポスター発表は、追加募集分を含めて合計 49 件。投票を実施し、 上位 3 件を表彰 ・情報交換会を久しぶりに開催。 |

| | |
|--------|---|
| | <p>(2)年次大会専門委員会：Web 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長交代により、委員の役割分担を決定。 ・年次大会の中長期ビジョンを議論。また財政的な中長期計画を立案。 ・企業趣意書の見直しを行った。 ・年次大会のシステムを SmartCore に変更し、RA 協議会のシステムの統一。 ・口頭発表を第 9 回大会から再開することを決定。それに伴い、要項等を整備 <p>(3)第 9 回年次大会開催に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 9 回年次大会ホスト校の東京都立大学と RA 協議会事務局と役割分担を決めて準備を進める。Slack を活用。 |
| 事業効果 | <p>(1)第 8 回年次大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 大会ぶりの対面をメインとしたハイブリッド方式での開催により、URA 間の交流が再開した。 ・ホスト校の東北大学の尽力により、スムーズにハイブリッド方式での開催ができ、ハイブリッド方式での経験を積んだ。 <p>(2)第 9 回大会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懸念事項であったシステムの統一化に成功。 ・ホスト校の東京都立大学の尽力により、スポンサー数の増加。 ・これまでの積み上げにより、セッション実行委員会からの質問事項が減少。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・第 9 回大会から年次大会のシステムを SmartCore への変更により、RA 協議会事務局への負担が増加している点。 ・上記に関連して、ホスト校への負担が増加。年次大会専門委員会として役割軽減をもっと図るべき。 ・非営利団体の取扱いのさらなる整理が必要。 |
| 事業収入総額 | 6,749,000 円 |
| 事業支出総額 | 10,029,463 円 |
| 備考 | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|---|
| 期 | 第3期 (2022.7.1~2023.6.30) |
| 委員会等名 | スキルプログラム専門委員会 |
| 委員会等 開催状況 | 2022/7/14 (木) 13:00~15:00 オンライン 2022/8/18 (木) 13:00~15:00 オンライン 2022/9/8 (木) 13:00~15:00 オンライン 2022/10/13 (木) 13:00~15:00 オンライン 2022/11/10 (木) 13:00~15:00 オンライン 2022/12/8 (木) 15:00~17:00 対面 於：八王子 2023/1/12 (木) 13:00~15:00 オンライン 2023/2/9 (木) 13:00~15:00 オンライン 2023/3/9 (木) 13:00~15:00 オンライン 2023/4/21 (金) 10:00~12:00 オンライン 2023/5/19 (金) 9:00~11:00 オンライン 2023/6/2 (金) 9:00~11:00 オンライン |
| 具体的 活動内容 | (1)URA 実務者養成講座<初級編>の企画・運営 2022/8/29 (月) 14:00-17:30 於：仙台国際センター 会議室 4 リアル参加 20 名+OL 参加 11 名 計 31 名 (非会員 7、組織内 14、組織外 10) (2)第 8 回年次大会 教育セッション(2 コマ)の企画・運営 2022/8/31 (水) 10:40-12:10 於：展示室 3-B テーマ別勉強会<試行>活動報告(矢吹) 平井、西村、丸山 2022/8/31 (水) 13:50-15:20 於：展示室 3-B 中堅 URA スキルアップ(三和) 諏訪、寺本、米澤 (3)テーマ別勉強会支援の企画・運営 試行結果を受け募集要綱、実施要領の整備、本格稼働に向けた課題整理 など(経費支援を中止、勉強会の登録制度を検討など試行第 2 弾へ) (4) URA 実務者養成講座<中級編>の企画・運営 2023/2/22 (水) 10:30-16:30 於：関西医科大 看護学部棟 講義室 3 リアル参加 5 名(非会員 0、組織内 1、組織外 4)、メンバー 12 名 (5)スキルプログラム専門委員会の活動基盤整備・運営 Zoom アカウントの契約済み、利用中 Dropbox アカウントの契約済み、利用ルール検討中、一部利用開始 SmartCore グループの利用開始、2023/3 月で Slack 中止 |

| | |
|--------|--|
| 事業効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・スキルプログラム専門委員会メンバー19名に 毎月の定例打合せにも参加率ほぼ100% ・URA 認定制度の研修が本格稼働したが、本専門委員会の研修事業にも 引き続きニーズ有り →認定制度の研修は形式知を扱う内容、こちらの研修事業は経験談やゲ ルワークにフォーカスした暗黙知を扱う内容（補完関係を意識）。 |
| 今後の課題 | なし |
| 事業収入総額 | 160,000 円 |
| 事業支出総額 | 202,975 円 |
| 備 考 | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|--|
| 期 | 第3期(2022.7.1~2023.6.30) |
| 委員会等名 | 情報発信専門委員会 |
| 委員会等 開催状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回情報発信専門委員会 2022年11月17日 事業計画の具体化について検討 ・第2回情報発信専門委員会 2023年1月18日 ネットワーキングセミナーのテーマについて ・第3回情報発信専門委員会 2023年5月11日 ネットワーキングセミナー準備 年次大会セッションの検討、第4期事業計画 ・その他メーリングリストによる意見交換 |
| 具体的 活動内容 | <p>(1) ネットワーキングセミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・URA 業務関係者の視点の交換やネットワーキングを目的としたセミナーを開催 <p>テーマ：大学におけるリカレント教育に期待される役割 話題提供「“Knowledge Transfer”としてのリカレント教育」 山本 貴史氏（東京大学エクステンション 代表取締役社長） 日時：2023年6月6日（火）17:30-19:00 場所：オンライン</p> <p>(2) 情報発信委員会専用メールアドレスの開設</p> |
| 事業効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・URA 業務関係者の視点の交換やネットワーキングを目的としたセミナーを開催の実施により、共通のテーマに関して URA 間の交流が促進できた。会員間に限らず、事務職員等、URA や関連業務への理解を深める効果が期待できる。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信のための SNS 等の運用指針の検討及び理事会等への提案および WEB サイトのコンテンツの更なる充実に向けた検討及び理解への提案について、具体的な活動に展開する必要がある。英語サイトについては国際発信専門委員と協力して実施する。 ・組織会員へ委員参画への理解を求める。 |
| 事業収入総額 | 0 円 |
| 事業支出総額 | 6,165 円 |
| 備 考 | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|---|
| 期 | 第 3 期 (2022.7.1～2023.6.30) |
| 委員会等名 | 国際専門委員会 |
| 委員会等 開催状況 | <p>第 3 回委員会(委員会発足時から通算) 2022.7.7 予算案の承認、年次大会の委員会セッション準備、活動報告作成について</p> <p>第 4 回委員会 2022.8.4 年次大会の委員会セッション準備、今後の活動検討</p> <p>第 5 回委員会 2022.8.29 年次大会の委員会セッション準備、今期の活動検討</p> <p>第 6 回委員会 2022.8.30 年次大会のセッション開催</p> <p>第 7 回委員会 2022.10.24 新規委員の追加について、委員会活動の報告と協議(情報発信、勉強会、SRA)</p> <p>第 8 回委員会 2022.3.19 勉強会開催について、年次大会セッションについて、広報活動について、今後の委員会活動について</p> <p>第 9 回委員会 2022.6.7 第 4 期事業計画について、RMAN-J ジャーナルの委員会記事の検討、年次大会のセッション準備</p> |
| 具体的 活動内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 第 8 回年次大会 “国際専門委員会セッション” 国際専門委員会・新たな価値創造の源泉となる国際 URA の活動と展望”の企画・運営 2) Twitter のアカウント開設 https://twitter.com/rmanj_kokusai により、国際関連の情報発信を開始 3) 国際業務に関連する勉強会の企画 4) RA 協議会の委員会 HP の英訳企画 |
| 事業効果 | <ul style="list-style-type: none"> • 年次大会の委員会セッションにおいては、多くの聴衆の参加があり、大学等研究機関での国際関連業務における URA の役割についての活発な意見交換があった。 • Twitter の開設により、手軽な国際専門委員会としての情報発信が可能となった。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> • RA 協議会の HP の英語版作成を情報発信専門委員会と協力して行う。 • 第 3 期に企画のみで実施できなかった勉強会を開催する。 • Twitter のフォロワー数はまだ 7 と少ない。ターゲットを絞り、発信の方針を明確にすることで、閲覧者数やフォロワー数を増やすことが望まれる。 • 年次大会セッションの内容を広く情報発信できるようにする。 |

| | |
|--------|--|
| 事業収入総額 | 0円 |
| 事業支出総額 | 0円 |
| 備考 | 第8回年次大会の国際専門委員会で予定していた海外スピーカーを迎えるセッションについては、新型コロナによる入国制限の影響もあり、他のスピーカーへの変更も困難となり、セッションを中止した。 |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|--|
| 期 | 第 3 期 (2022.7.1~2023.6.30) |
| 委員会等名 | ジャーナルタスクフォースおよびジャーナル編集委員会 |
| 委員会等 開催状況 | <p>○第 12 回理事会にて、ジャーナルタスクフォースより、ジャーナルの基本的事項、出版インフラ発行運営体制、持続的運営体制及び各種の規程（案）（編集規程、執筆要領、審査要領、選考の基本方針）を提案。</p> <p>○第 13 回理事会にて、ジャーナル創刊号の編集委員、創刊号の構成、編集規定などを提案し、承諾を取得。なお、編集委員会は、創刊号と第 2 号以降に分けて、委員の選出及び活動を実施する。</p> <p>創刊号の第 1 回編集委員会（2023 年 2 月 21 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿校正および表紙デザインの外注先を決定。原稿は 2 段組で構成。 ・企業広告の獲得に向けた営業活動の進め方を決定。 <p>創刊号の第 2 回編集委員会(2023 年 3 月 6 日)（書類審議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿執筆依頼先および執筆原稿レイアウト（案）を確認。 <p>創刊号の第 3 回編集委員会（2023 年 3 月 23 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体スケジュール、および構成（案）について ・概要および原稿執筆のお願いについて ・執筆要領について <p>創刊号の第 4 回編集委員会（2023 年 4 月 26 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙デザイン（ロゴ案）に関する意見収集 ・寄稿原稿の進捗状況の確認および課題への対応 ・企業広告の募集および課題への対応 ・全体スケジュールの確認および対策の検討 <p>* 上記編集委員会以外に、随時オンラインおよびメールにて業務を推進。 * 第 2 号以降の編集委員会の第 1 回会合は 8 月 8 日（火）に開催予定。</p> |
| 具体的 活動内容 | <p>創刊号の発行に向けて、以下の活動を実施。</p> <p>(1)目次の確定、および原稿の執筆依頼と日程管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次：巻頭言、創刊号特集、専門委員会の活動、ニュース&トピック 企業広告、編集後記の 6 項目 ・執筆依頼先に、原稿執筆依頼書を発行 <p>(2)企業広告取得に向けた営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員および第 8 回年次大会の協賛企業などに営業活動を実施。 ・賛助会員の Tayler& Francis と旭化成より広告掲載を獲得。 |

| | |
|--------|--|
| | <p>(3)原稿と企業広告の掲載に関する（株）ソウブン・ドットコムへの外注</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初稿原稿の編集および校正 ・2稿原稿の編集および校正 ・最終原稿の編集および校正 <p>(4)表紙および裏表紙のデザイン制作に関する（株）おいかぜへの外注</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研究力強化」「多様性」「成長性」をイメージするデザインを依頼 ・ロゴ版1点、イラスト版1点、オブジェクト版3点よりロゴ版を採用 ・裏表紙には、RA協議会の目的・組織/賛助会員・入会案内を記載 <p>(5)創刊号原稿の校正およびISSNコードの取得などに関する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創刊号原稿の校正を基本的に3回実施。 ・国立国会図書館より「ISSN 2758-9730」を取得し、表紙右上に掲載 <p>(6)創刊号の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行 2023年8月7日（月）（第9回年次大会の前日） ・冊子 1,000部。内800部を第9回年次大会の会場にて配布予定。 |
| 事業効果 | <p>○RA協議会の会員の活動成果を共有・蓄積し、専門的な知識とスキルの高度化、およびコミュニティ機能の強化を推進する場を提供することにより、組織の研究力強化に資することが期待できる。</p> <p>○RA協議会の活動を産業界等に発信することで、新規賛助会員の獲得や新たな人材の確保に繋げることが期待できる。</p> |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2号以降では、特集テーマに合致した投稿原稿を募集することになるため、審査依頼や採択通知などの工程管理が重要となる。 ・第2号以降の特集テーマについては、各専門委員会の活動等と連携して企画を立案し、原稿を募集する予定である。 ・RMAN-Jジャーナルの自立化に向けて、新規賛助会員の獲得などを含めた企業広告に関する営業活動を強化する必要がある。 |
| 事業収入総額 | 0円 |
| 事業支出総額 | 0円 |
| 備考 | |

一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会
 専門委員会等事業報告書

| | |
|--------------|--|
| 期 | 第 3 期 (2022.7.1~2023.6.30) |
| 委員会等名 | 将来構想検討会 |
| 委員会等 開催状況 | <p>2023 年 3 月末までの時限で設置された本将来構想検討会は、2022 年 9 月発足の理事懇談会に発展的に吸収されたため、今期は、委員会活動など 具体の活動は実施していない。</p> <p>尚、円滑な移行のため 2023 年 3 月末までの当初設定期間を事業年度に 合わせ 23 年 6 月末と変更（第 9 回理事会にて承認）のため、本期にて報 告するものである。</p> |
| 具体的 活動内容 | |
| 事業効果 | |
| 今後の課題 | |
| 事業収入総額 | 0 円 |
| 事業支出総額 | 0 円 |
| 備 考 | |

IV. 第3期の運営体制（2023年5月24日現在）

役員（敬称略，役職順，同一役職については五十音順）

| 役職名 | 氏名 | 所属 | 会員種別 | 備考 |
|-----|--------|--------|---------|---------------|
| 会長 | 小谷 元子 | 東北大学 | 組織会員 | |
| 副会長 | 佐治 英郎 | | 特別会員 | 財務担当 |
| 副会長 | 高橋 真木子 | 金沢工業大学 | 組織外個人会員 | 総務担当 |
| 副会長 | 森倉 晋 | 電気通信大学 | 組織会員 | 事業担当 |
| 理事 | 石田 貴美子 | 同志社大学 | 組織外個人会員 | 情報発信専門委員会 |
| 理事 | 柴田 徹 | 東京都立大学 | 組織会員 | スキルプログラム専門委員会 |
| 理事 | 杉原 伸宏 | 信州大学 | 組織会員 | |
| 理事 | 寺本 時靖 | 神戸大学 | 組織会員 | 年次大会専門委員会 |
| 理事 | 徳田 加奈 | 福井大学 | 組織会員 | |
| 監事 | 馬場 忠 | | 特別会員 | |

代議員（敬称略，五十音順）

| 整理 番号 | 氏名 | 所属 | 会員種別 |
|----------|--------|---------------|------------------|
| 1 | 阿部 仁 | 富山大学 | 組織会員 |
| 2 | 池田 雅夫 | | 特別会員 (会長特別補佐) |
| 3 | 宇根山 絵美 | 岡山大学 | 組織会員 |
| 4 | 大小原 努 | 量子科学技術研究開発機構 | 組織会員 |
| 5 | 垣田 満 | 徳島大学 | 組織会員 |
| 6 | 狩野 幹人 | 三重大学 | 組織会員 |
| 7 | 川人 よし恵 | 大阪大学 | 組織会員 |
| 8 | 岸本 遼 | 鹿児島大学 | 組織会員 |
| 9 | 北村 浩三 | 情報・システム研究機構 | 組織会員 |
| 10 | 古宇田 光 | 東京大学 | 組織会員 |
| 11 | 佐宗 章弘 | 東海国立大学機構 | 組織会員 |
| 12 | 佐野 恵利子 | 中央大学 | 組織外個人会員 |
| 13 | 塩入 諭 | 東北大学 | 組織会員 |
| 14 | 塩満 典子 | 広島大学 | 組織会員 |
| 15 | 嶋田 庸嗣 | 理化学研究所 | 組織会員 |
| 16 | 白井 哲哉 | 京都大学 | 組織会員 |
| 17 | 末吉 邦 | 新潟大学 | 組織会員 |
| 18 | 高木 博史 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 組織会員 |
| 19 | 高橋 秀美 | 芝浦工業大学 | 組織会員 |
| 20 | 玉村 好司 | 東京医科歯科大学 | 組織会員 |
| 21 | 永井 明彦 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 組織会員 |
| 22 | 永木 康博 | 高エネルギー加速器研究機構 | 組織会員 |
| 23 | 中嶋 英充 | 日本原子力研究開発機構 | 組織会員 |
| 24 | 中野 悦子 | 北海道大学 | 組織会員 |
| 25 | 中村 慎一 | 金沢大学 | 組織会員 |
| 26 | 中山 俊秀 | 東京外国語大学 | 組織会員 |
| 27 | 西田 篤司 | 千葉大学 | 組織会員 |
| 28 | 西村 薫 | 鳥取大学 | 組織外個人会員 |
| 29 | 花屋 実 | 群馬大学 | 組織会員 |
| 30 | 原田 隆 | 東京工業大学 | 組織外個人会員 |
| 31 | 樋口 隆信 | 電気通信大学 | 組織会員 |
| 32 | 福田 直子 | 熊本大学 | 組織会員 |
| 33 | 藤松 佳晃 | 沖縄科学技術大学院大学 | 組織会員 |
| 34 | 森本 行人 | 筑波大学 | 組織会員 |
| 35 | 矢吹 命大 | 横浜国立大学 | 組織会員 |
| 36 | 王 鴻香 | 長崎大学 | 組織会員 |

【専門委員会等名簿】

◎委員長 ○副委員長（委員長を除き五十音順）

| | 委員会等 | 委員等（長を除き五十音順） | 備考 |
|-----------------------|---------------|--|----|
| 専 門 委 員 会 | 年次大会専門委員会 | ◎寺本 時靖（神戸大学） 伊藤 祥遊（筑波大学） 稲穂 健市（東北大学） 古賀 敦朗（鳥取大学） 佐野 恵利子（東京藝術大学） 嶋田 庸嗣（理化学研究所） | |
| | スキルプログラム専門委員会 | ◎柴田 徹（東京都立大学） 池松 克昌（高エネルギー加速器研究機構） 磯部 靖博（東京工業大学） 植木 千尋（日本原子力研究開発機構） 上島 一夫（山口大学） 臼澤 基紀（東北大学） 垣田 満（徳島大学） 菊池 百合子（東京大学） 北岡 タマ子（人間文化研究機構） 久保 琢也（横浜国立大学） 三枝 公美子（量子科学技術研究開発機構） 佐々木 健一（関西医科大学） 設楽 愛子（東京海洋大学） 高橋 将太（高エネルギー加速器研究機構） 玉村 好司（東京医科歯科大学） ○徳田 加奈（福井大学） 三和 正人（九州先端科学技術研究所） ○矢吹 命大（横浜国立大学） 横田 秀和（東海大学） 王 鴻香（長崎大学） | |
| | 情報発信専門委員会 | ◎石田 貴美子（同志社大学） 川人 よし恵（大阪大学） 武田 浩太郎（東北大学） 中渡瀬 秀一（国立情報学研究所） 原田 隆（東京工業大学） 宮田 知加（名古屋芸術大学） 森田 智子（国立がん研究センター中央病院） | |

| | | | |
|------------|--|--|--------------|
| | 国際専門委員会 | ◎西村 薫（鳥取大学） 宇根山 絵美（岡山大学） 北村 浩三（情報・システム研究機構） 坂井 華海（熊本大学） 鈴木 環（日本貿易振興機構） 二歩 裕（東海国立大学機構 名古屋大学） 村上 舞（東京大学） 米川 聡（鹿児島大学） | |
| ジャーナル編集委員会 | RMAN-J Journal 創刊号 | ◎森倉 晋（電気通信大学） 天野 絵里子（京都大学） 稲石 奈津子（京都大学） 加藤 英之（東京工業大学） 中渡瀬 秀一（情報・システム研究機構） 松山 紀里子（信州大学） | 第 13 回理事会承認済 |
| | RMAN-J Journal 第 2 号以降 （任期 2023.4.1 から 2026.3.31） | ◎森倉 晋（電気通信大学） 稲石 奈津子（京都大学） 稲穂 健市（東北大学） 神谷 俊郎（京都産業大学） 中渡瀬 秀一（情報・システム研究機構） 二歩 裕（東海国立大学機構 名古屋大学） 平井 克之（新潟医療福祉大学） 若松 永憲（人間文化研究機構総合地球環境学研究所） | 第 13 回理事会承認済 |
| 時限付き会議体 | URA 質保証事業 推進委員会 | ◎森倉 晋 池田 雅夫 佐治 英郎 高橋 真木子 | 第 3 回理事会承認済 |